

フジコナカイガラムシ情報第1号

平成26年5月16日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病虫害防除室

フジコナカイガラムシの防除適期は、
おおむね前年並の6月3日から10日です。

1 フジコナカイガラムシの防除適期

フジコナカイガラムシの成虫（図1左）、卵のう（図1中央）、2、3齢幼虫はろう物質に覆われ薬液をはじいてしまうため、農薬による防除効果はほとんど期待できません。防除適期は、ろう物質に覆われない1齢幼虫（図1右）の発生時期に限られます。そのため、1齢幼虫発生時期がそろっている第1世代1齢幼虫の発生ピークを把握し、防除することが重要です。



図1 フジコナカイガラムシの成虫、卵のう、1齢幼虫

2 防除適期予測

有効積算温度を利用したフジコナカイガラムシ第1世代1齢幼虫の発生ピーク予測日は、6月3日から6月10日です（表1）。

本年は春先の平均気温が前年並だったため、第1世代1齢幼虫の発生ピークは、おおむね前年並と予測します。

表1 フジコナカイガラムシの第1世代1齢幼虫発生ピーク予測日

	愛西	南知多	名古屋	豊田	岡崎	蒲郡	新城	豊橋	伊良湖
本年予測	6/8	6/10	6/3	6/8	6/9	6/6	6/10	6/8	6/9
(前年)	6/7	6/8	6/3	6/8	6/8	6/6	6/9	6/8	6/7
前年差	1日遅	2日遅	±0	±0	1日遅	±0	1日遅	±0	2日遅

注) 各地のアメダス平均気温から予測。5月15日までは本年実測値を、それ以降は平年値（豊橋は前年値）を用いて計算。前年については、前年気温の実測値を用いて計算。

3 ふ化状況の確認

フジコナカイガラムシのふ化時期は、地域やほ場によって若干異なります。そのため、各ほ場内の卵のふ化状況を確認して防除適期を把握することが重要です。

【ふ化状況確認方法】

- (1) 表1の1齢幼虫発生ピーク予測日の10日前頃に卵のうが多く発生するので、前年発生が多かった樹の剪定傷跡や粗皮の隙間から、卵のうを2から3個採取します。
- (2) 卵のうをシャーレ等の容器の中心におき、容器の縁にワセリン（軟膏やハンドクリームでも可）を塗り、容器を納屋など直射日光が当たらない場所に置き、毎日ふ化状況を確認します。
- (3) 卵のうからふ化した1齢幼虫がワセリンに多数付着し、歩行している1齢幼虫も多く見られるときが、1齢幼虫発生ピークです（図2）。

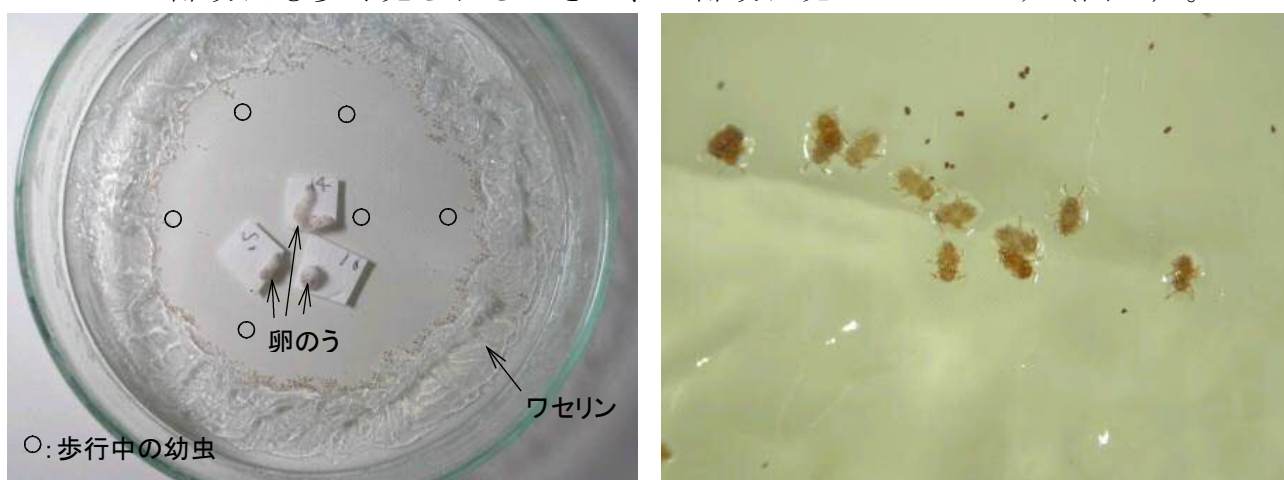


図2 1齢幼虫発生ピークの状態（左）とワセリンに付着した1齢幼虫（右）

4 防除方法

- (1) 防除適期は、1齢幼虫の発生時期が揃う第1世代1齢幼虫発生ピークです。
- (2) 前年、発生が多かったほ場では、表1を参考に第1世代1齢幼虫の発生ピークを予測し、上記の【ふ化状況確認方法】により各ほ場の1齢幼虫発生ピークを確認し、防除を実施しましょう（表2）。
- (3) 散布むらがないように、十分な薬液量を丁寧に散布しましょう。

作物名	薬剤名
モモ	アプロードフロアブル
	マラソン乳剤
	モスピラン顆粒水溶剤
ナシ	アプロードフロアブル
	アドマイヤー顆粒水和剤
	モスピラン顆粒水溶剤
	スタークル/アルバリン顆粒水溶剤

作物名	薬剤名
ブドウ	アプロードフロアブル
	アドマイヤー顆粒水和剤
	モスピラン顆粒水溶剤
	スタークル/アルバリン顆粒水溶剤
カキ	スプラサイド水和剤
	アドマイヤー顆粒水和剤
	モスピラン顆粒水溶剤
	スタークル/アルバリン顆粒水溶剤

農薬の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努めましょう。